



# 東北小だより

～学校教育目標～  
なかよく元気な子  
よく考える子  
すすんで働く子

開校56年目

新座市北野3-1-1 Tel 048-471-2022  
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

令和6年度10月号  
全児童数 820名

## 本にふれ、実り豊かな秋に

～ 笑顔いっぱい 歌声響く 東北小学校 ～

校長 齊藤 直之

「読書月ゼロ6割」これは、9月18日の新聞の見出しです。

6割の人が1ヶ月に1冊も本を読まない。そのようなデータが、文化庁が実施した令和5年度の国語世論調査で明らかになりました。「本が売れない」と最近をよく言われてはいますが、過去の調査で半数を超えることはなかったそうです。

読書量が減少した人に理由を複数回答で尋ねると、「スマートフォンやタブレットなどに時間が取られる」との回答が43.6%で最も多く、「仕事・勉強で多忙」が38.9%と続いています。「スマホ・タブレットなど」が減少要因としてトップになったのは、調査開始以来、初のこととなります。

また、その傾向は若い世代で顕著となっているようです。

話は変わりますが、皆さんは、本を選ぶときに迷ったりしないでしょうか。私は、より充実した読書習慣を送るために重要なのが、読む本を「選ぶ力」が必要だと思います。本を選ぶには誰の意見を聞けばいいのか、本当に良い1冊に出会うにはどうしたらいいのか、自分の成長のためには、どうしたらいいのかなど、本の選び方のヒントがあれば、嬉しいといつも思っています。

まずは、誰も自分の好きな本のジャンルがあると思います。私も本棚にはその傾向があり、同じような本が多く並んでいます。人気のある本を選んでも、自分の興味がある本でなければ、途中でいつも挫折してしまい、失敗します。やはり、自分の趣向に沿ったものでなければ成長のためのエ

ネルギー、栄養にはならないのだと思います。自分の今の状況を把握し、今の自分に本当に必要な本を読む。それだけで、自己成長は何倍も加速します。

しかし、自分にとって「本当に良い1冊の本」はそれほど多くあるものではありません。「本当に良い1冊の本」に出会うのは、野球でいうと「ホームランを打つ」と同じことだと思います。

とは言っても、小学生にとっては、読書の習慣作りの時期でもあります。まずは、興味がある本を手にとって、コツコツとヒットを重ねること。野球でもよく言いますが、「ヒットの延長がホームラン」この気持ちで日々の積み重ねをすることが自分の成長につながるのだと思います。「たくさん読む」から「どの本を読むのか」に移行し、1冊1冊を真剣に選んでいくようになる。そうすることで、真に自分の成長につながるような「ホームラン本」と出会うのではないのでしょうか。

自分にとって良い本は、偶然に出会っているようで、実は偶然ではないそうです。どの本棚の前を歩き、どこに目を光らせているのか。私たちは何もしていないようで、無意識に注意力を働かせて、「選択」しているのです。

この10月から11月は、読書に適した時期とも言えます。本校では朝読書に取り組んでいますが、この機会により深い学びとなるよう、推進してまいります。

私もこの機会に、少し領域を広げて「選ぶ力」を高めたいと考えています。